

アルミスクラップ需給は供給過剰

輸入は地金、スクラップとも減少

橋本健一郎氏リポート②



橋本健一郎氏

六月前半は、1Qの日本のGDP二次速報値は前期比1%増、年率換算3・9%増、朝方発表の五月の西欧圏の自動車販売は前年同月比

〇・二%増の一〇六万台などのプラス材料もあったが、中国人民銀行エコノミストが今年の中国成長目標を七%に下方修正したこと、五月の中国自動車販売台数は前年比〇・四%減の一九〇万台、二カ月連続の減少した事、五月の中国貿易黒字は五九五・九億ドル、予想は四四九・五億ドル。輸出は前年比二・五%減、輸入は一七・六%減、予想は一〇・七%減だったことなどのマイナス材料を受けてLMEアルミ相場はDOWN、六月十五日時点で、七〇三・五〇ドル(現物後場買い)と月初価格から三ドルDOWNの前半締めとなった。

後半は、五月の米中古住宅販売件数が前月比五・一%増加の五三五万件になったことを好感し上昇。米週間新規失業保険申請件数は二七・一万件に増加、予想は二七・三万件、五月の米個人消費は前月比〇・九%増加、予想の〇・七%増を上回るなどのプラス材料もあったが、ギリシャがIMFに六月三十日が期限となっている一七億ドル(一・一〇〇億円)の返済が不履行な事、国民投票で緊縮財政にNOを突きつけた結果となった事によりデフォルトが現実味を帯びてきたことからDOWN、七月一日現在でLMEアルミ(現物後場)一、六四八ドルと後半スタート価格から五八・五ドルDOWNしてのスタートとなった。

◆月間のドル/円レート (TTS)

一二五・一二→一二三・三九(円)

◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前年比一六・六%減の六四万五、四二七台であった。

◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前年比五・四%増の二七万九、三七五台。

◆新設住宅着工戸数

国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数は前年比五・八%増の七万一、七二〇戸であった。

◆貿易関連指標

輸出

財務省貿易統計によれば、輸出はアルミ新地金が前年比三・四%減の一四三・二二次合金が六・五%減の一、二九八、前月比でスクラップが一六・六%減の二万〇、三三九トアルミ缶が一四・一%減の一、九三七ト。輸入

輸入は新地金が前年比一三・七%減の一四万一、〇八二ト、二次合金が一三・六%減の八万二、五二三ト、スクラップが二四・七%減の八一九ト、合金スクラップは二・二%減の四、六六二ト。

■前月の国内指標

日本アルミウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比五・一%減の一六万三、九〇六ト。

日本アルミウム合金協会発表のアルミウム二次合金・同合金地金等生産実績は、前年比一三・五%減の五万八、四九三トであった。

■概況

【自動車生産】

五月の四輪車生産台数は六四万五、四二七台で、前年同月の七七万四、一四一台に比べて二万八、七一四台(一六・六%の減少)となり、一カ月連続で前年同月を下回った。

五月の車種別生産台数と前年同月比は次の通り。乗用車五三万九、一七三台で一万五、八五九台(一七・七%の減少)となり、一カ月連続のマイナス。このうち普通車は三三万三、一七三台で二万八、九五九台(八・〇%の減少)、小型四輪車は一〇万二、七一六台で三万七、〇五八台(二六・五%の減少)、軽四輪車は一〇万三、二八四台で四万九、八四二台(三二・五%の減少)。

トラック九万五、四四六台で一万三、三九九台(二・三%の減少)となり、四月月ぶりのマイナス。このうち普通車は四万三、一一四台で四、一七九台(八・八%の減少)、小型四輪車は二万四、一五二台で二、三九二台(九・〇%の減少)。軽四輪車は二万八、〇八〇台で六、八二八台(一九・六%の減少)。

バス一万〇、八〇八台で五四四台(五・三%の増加)となり、三カ月連続プラス。このうち大型は八四八台で二七八台(四八・八%の増加)、小型は九、九六〇台で二六六台(二・七%の増加)。

五月の国内需要は三三万五、六四四台で、前年同月比七・六%の減少であった。うち乗用車二七万九、四一九台で前年同月比八・二%の減少、トラック五万五、五八五台で同五・〇%の減少、バス六四〇台で同二四・八%の増加。輸出は前年同月比一〇・〇%の減少。(実績)

【自動車販売】

六月の国内自動車販売台数(軽を除く)は二七万九、三七五台で前年比五・四%増。三カ月連続プラス。年累計では九二・一%減。うち乗用車四・六%増、貨物車九・九%増、バス一九・九%増。(六面へ続く)

(四面より続く)

【住宅着工数】

・平成二十七年五月の住宅着工戸数は七万一千二百戸で、前年同月比で五・八%増となった。また、季節調整済年率換算値では九・一・一万戸(前月比〇・二%減)となった。

・住宅着工の動向については、昨年四月の消費税率上げに伴う駆け込み需要の反動もあって、このところ前年同月比で減少が続いていたが、足下では前年同月比で三カ月連続の増加となっている。

・住宅着工については、今般の経済対策等を踏まえ、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。

【持家】

前年同月比では一六カ月ぶりの増加(前年同月比一・一%増、季節調整済の前月比では四・八%減)。

【貸家】

前年同月比では二カ月ぶりの増加(前年同月比二・八%増、季節調整済の前月比では〇・四%減)。

【分譲住宅】

前年同月比では二カ月連続の増加(前年同月比一・一%増、季節調整済の前月比では八・〇%増)。

【分譲マンション】

前年同月比では二カ月連続の増加(前年同月比五四・九%増)。

【分譲一戸建住宅】

前年同月比では一三カ月連続の減少(前年同月比八・八%減)。

【アルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績】生産は前年比一三・五%減の五万八、四九三t。七カ月連続マイナス。出荷は一三・四%減の五万八、三五一t。一五カ月連続マイナス。

うち、出荷先別では、鋳物一〇・五%減、ダイカスト一六・六%減、板二・一%増、押出九・〇%減、鉄鋼二〇・四%減、合金地金メーカー七・三%減。

【アルミ圧延・押出品生産数】

五・一%減と三カ月連続マイナス、一六万三、九〇六t。

【見通し】

・自動車は生産が前月に続き大幅減少の一六・六%減。一方、六月の国内販売台数が前年比五・四%増。

生産が一カ月連続マイナスの中、販売が三カ月連続プラス、ただ輸出が一〇%減。この販売増の流れが六月も続き生産増につながるか今後の動向に期待。

・新設住宅着工数は前年比五・八%増、季節調整済年率換算値で九・一・一万戸(前月比〇・二%減)。

前年比で三カ月連続プラス。季節調整済換算では二カ月連続マイナスに転じた。

住宅着工は、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動減の影響が薄れており、足下では前年同月比で三カ月連続の増加となっている。今般の経済対策等を踏まえ、今後の動向に注目。

・アルミ二次合金

新設住宅着工件数は三カ月連続でプラス、自動車販売も三カ月連続プラスだったが要の自動

車生産が一七%減と大幅悪化、販売増が悪化を喰い止めることができるか注視する必要がある。

・アルミ圧延・押出品生産数

【圧延品】

ビール系飲料は二%減となったものの、ポトル缶の好調や一部コーヒータのアルミ化による需要増により、二カ月連続でプラス。

海外関連工場への素条輸出の増加や円安による輸出環境の好転等により、一四カ月連続でプラス。全体としては三カ月連続で減少しており、今後の動向に注目。

【押出】

五月の住宅着工はプラスだったが、建設全体としては一カ月連続でマイナス。自動車生産もマイナスだったことから、今後も調整が続くのではないかと。

・輸出 一円程度円高が続いている事やLMEアルミの大幅下落から、地金、二次合金、大幅減。アルミ缶は国内玉の高値買筋が治まったところから輸出増。

・輸入 LMEアルミの下落を受けて地金はマイナス、スクラップは円高を受けて減少。

前記を踏まえアルミスクラップ需給は供給過剰との見解。

【価格・為替予想】

今月は、中国の金融政策及び景気対策、引き続きギリシャ債務問題に左右される。

中国の金融および景気対策に関しては、当局は金融緩和及び利下げなどの政策を行っているものの、現状にそれが景気に寄与しているとは考えにくい。故に、いわゆる大規模な景気対策が必要だが、現政権ではスムーズの行う可能性は低いのではないかと。

ギリシャの債務問題に関しては、IMFへの借金が六月三十日の時点で返済されることはなかった。EUからの融資を受けるための国民投票でもNOを突きつけておりデフォルトする可能性は高い。IMFが七月十四日に催促状を送付、七月二十八日に返済がなければ、正式にデフォルトされる予定。

それらを踏まえた七月のアルミ価格は、中国当局が景気対策に関しての何かしらの表明をし、ギリシャがIMFへの返済をした場合、六月高値の一、七〇〇ドルを予測。いずれの場合は一、六五〇ドル。

下値はいずれの条件も達成できなかった場合、もう一段安値の一、五五〇ドル。

為替は、米FRBの利上げについて年内説が台頭するも、その後はゆるやかなものになるとの認識が台頭、好調な米経済指標やギリシャ債務問題での一段のユーロ安から六月中はドル高円高傾向がつづくのではないかと。

今後、上値はギリシャが七月二十八日に向かって正式にデフォルトの道を歩んだ場合、一・二円台を予測。下値はギリシャの債務返済と米経済指標の好調が進み利上げ観測が出た場合は二・五円台。

メーカースクラップ購入価格は五円安く一〇円安と予測している。